

# 札幌らしい交通環境学習 指導案 [社会科]

札幌らしい交通環境学習とは、「MM※教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としています。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっています。

※「MM（モビリティ・マネジメント）」とは、市民が「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通などを含めた多様な交通手段を適度に（かしこく）利用する状態」へと少しずつ改善していく、コミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組み。

## ■実施例

実施校 北海道教育大学付属札幌小学校

実施学級 5年2組

実施日 2018年7月6日（金）1校時

指導者 樋渡 剛志

科目/単元名 社会科「情報を生かす産業」[8時間扱い 本時 6/8]

## [指導計画]

### 1.教材にかかわって

#### ①学習指導要領の位置づけ

[小学校 新学習指導要領 社会]

#### ●目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す

- (1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技術を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願う我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

#### ●内容

(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通じて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。

(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

(ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(内容の取扱い)

イ アの(イ)及びイの(イ)については、情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。その際、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。

#### ②モビリティ・マネジメント教育の視点から

本単元では、持続可能な社会の実現に向けて努力するJRバスと札幌市の取り組みを通して「情報や情報技術を活用して、運輸に関わる産業がどのように発展しているのかを考える」ことをねらいとする。また、依然として赤字路線が多く、いつ市民の足である公共交通が無くなってもおかしくないという事実から、企業や行政の取り組みと、札幌市民としての社会参画意識にも目を向けさせていく。

本時では、バスロケーションシステムを取り入れる社会的事象からJRバスと札幌市がねらっている意図について考える活動を通して、持続可能な社会を追究していく。スマートフォンの普及率のグラフから、何十年先のことまで考えている企業と行政の取り組みにも目を向けさせていく。

## 2. 単元にかかわって

### ● 単元の目標

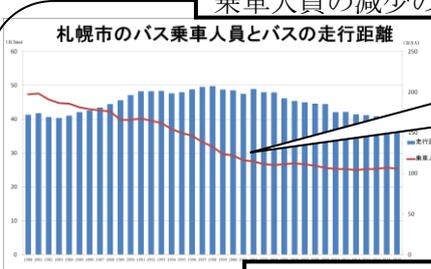
情報を活用する産業について、相互関係（利用者や事業者など）に着目して、付加価値を高めるために情報を生かしている産業について捉え、多角的に考える。

### ● 単元の構成（8時間扱い）

### 子どもの主な活動

単元の学習問題を作る【1時間】

乗車人員の減少のグラフと市民の要望を読み取ろう



この年から横ばいになってきているよ。

市民の要望に応えるために何かをしているのかな。

札幌市は、乗車人数を減らさないようにどのような取り組みをしているのだろうか？

どんな交通情報があると使いやすいのかな？

**通学中**

- 目的地までの時間
- 遅れ情報

**旅行・出張**

- どこに行けるか
- どれに乗ればよいか

自分が使った時のことやお家の人にインタビューしよう。

どうして SAPICA を取り入れたのかな？

なぜ、時刻表もあるのに、えきバスナビもあるのかな？

**環境**

サッと取り出して、ピッと利用できる

**効率**

子どもからお年寄りまで

**えきバス**

スマホさえあれば

バスロケーションシステムってどんなシステムなのかな？

アプリを使って確かめよう。

どうして JR バスは、バスロケーションシステムを札幌市の全ての区で使えるようにする？

**いつでも**

寒い日にも

**時間を有効活用**

待っている場所でも

**どこでも**

いつでも

誰でも スマホさえあれば

JR バスと札幌市は、どうだったか？

新聞作りをして学習してきたことをまとめよう。

**企業**

工夫をしている

**市民**

乗る人が少ない

いつまでもあるためには？

JR バスと札幌市は、市民がいつまでも便利に暮らせるように交通情報を活用しているんだ。ぼくたちが使わないと、公共交通はなくなってしまうかもしれないんだ。

バス会社と札幌市の取り組みを調べる【5時間】

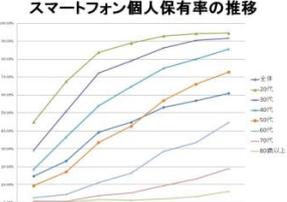
工夫や努力と課題についてまとめる【2時間】

### 3. 本時の目標と学習展開

#### ●目標

立場に着目して、札幌市でバスロケーションシステムを導入することの意図について考える活動を通して、国民生活の利便性が向上している一方で、課題もあることを捉える。

#### ●展開

学習展開	教師のかかわり
<p>(前時まで) 利用者の立場から、運輸における情報通信の活用による国民生活の利便性について実感してきている。</p>	<p>【自分から踏み出そうとする意志を生む】 次々と政令指定都市にバスロケーションシステムが導入されている事実を提示する。札幌はどうなのだろうかという思いを持たせていく。</p>
<p>バスロケーションシステムを導入している政令都市</p>  <p>○政令指定都市のバスロケーションシステム導入の状況を確認する。</p> <p>本州では、全ての政令指定都市で導入されている。      どここの政令都市でも導入しているということは…</p> <p>札幌でも導入されている? でも聞いたことないな。</p>	<p>【自己の見方・考え方を自覚させる場】 北海道の札幌以外の都市が導入している事実から、「早く札幌にも導入してほしい。」という思いをもたせ、2018年度末から全市で使えるようになる事実を提示する。子どもたちは「やった。」「よかった。」などとつぶやくと考える。そこに、「どうしてそんなに喜んでるの」と問い、バスロケの価値を引き出し、「だからJRバスの人たちは…」という一人一人の見方・考え方を引き出していく。</p>
<p>○北海道でのバスロケーションシステムの導入の状況を確認する。</p> <p>結構多くの都市で導入している。      まだ全面導入していない札幌・・・</p> <p>札幌も早く導入しないと。</p> <p>○JRバスが、2018年度末からバスロケーションシステムを札幌市の全ての区で使えるようにする事実から、その設置意図を考える。</p>	<p>【相互触発を生む場】 子どもたちは、既習を生かして「いつもで」「どこでも」「だれでも」と多面に考えていく。そこで、①どの見方かを整理する。②具体的な話をできるように切り返す(冬に便利って本当。どこでもってどこで)など、具体的に教師が関わる。</p>
<p>どうしてJRバスは、バスロケーションシステムを札幌市の全ての区で使えるようにする?</p> <p>○考えを交流する。</p> <p>どこでも ・家でも出先でも ・バスの中でも ⇒遅れがわかる</p> <p>誰でも ・アプリさえ知っていれば ・子どもからお年寄りでも</p> <p>いつでも ・冬に便利 ⇒寒さ、登校の時 ・待ち時間を上手く使えるようになる</p> <p>時間の有効活用ができる!</p>	<p>【自己決定しながら活動を進められる場】 スマートフォンの世代別普及率の変化が分かるグラフから、今までの追究を検証する場を構成する。「これからどうなっていくだろうか?」を問うことで、10年後20年後までを考えた企業の戦略を時間的に捉えられるようにする。</p>
<p>情報ネットワークを生かして、バスを利用しやすくしている。</p> <p>○スマートフォンの普及率のグラフから、これからどう普及していくかを考える。</p> <p>スマートフォン個人保有率の推移</p>  <p>・40代が50代になった時、かなり多くの人々がスマホを持っていることになる。 ・今は少ない世代も、これから先のことも考えているんだ。</p> <p>よりたくさんの人が使えるようにサービスを向上させているんだ。</p>	

板書計画

どうしてJRバスはバスロケを札幌市の全区で使えるようにしたの?

どこでも  
麻生丸太駅  
家でバス  
→時間調整  
家出る時刻  
遅刻  
間に合う?  
便利

誰でも  
持っている層  
ホムペを見てたり  
ケタイ、スマホがあれば  
西区と中央区  
10区で使える  
時間を有効に

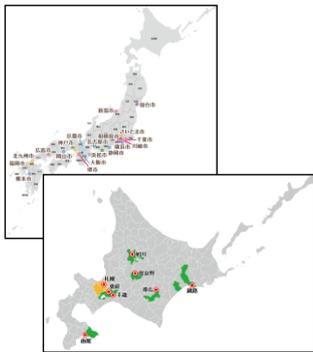
いつでも  
待っている時  
次乗車時  
→トイレ  
買い物に

スマートフォン個人保有率の推移

JRバスの考えが面白い!

## 4.本時で活用する資料と本時の様子

### ●活用する資料



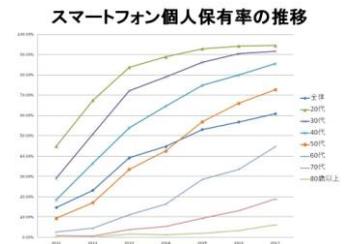
バスロケ導入状況  
(全国・北海道)



ジェイアール北海道バス  
の社屋画像



バスキタ画像



スマートフォン普及率の  
グラフ

### ●本時の様子



### [本時の板書]

